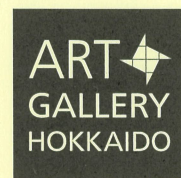


小原道城書道美術館 第39期特別記念展

会期 令和8年4月7日(火)

～8年7月31日(金)

休館日：毎週月曜日



アートギャラリー北海道

巖谷一六の書画展

日下部鳴鶴、中林梧竹と並ぶ明治の三筆の一人、巖谷一六の書画展を開催します。平成二十六年以来の展覧となります。

巖谷一六は、江戸時代は近江水口藩の藩医として勤めつつ尊王活動に参加し、多くの漢学者・勤王家と交流しました。この頃は巻菱湖の高弟中沢雪城に師事して流麗な唐様書を学びました。雪城の門からは一六のほか西川春洞・金井金洞などが輩出しています。明治に入ってから政府の書記官僚の道歩み、詔勅や公文書の起草・浄書に携わりました。同僚であった日下部鳴鶴や江馬天江とも親しく交流しました。この頃は、顔真卿の書を基礎とした雄渾な書風に転じ、更には、明治十三年に来日した楊守敬とは深く交わり、六朝書法を学んで大きな影響を受けて、一六独自の書風を確立しました。その書は当時から大変人気があり、明治を代表する書家の一人と言えます。

一六は各体の書を能くしたほか画も能くし、多彩な作品を産み出しました。漢詩にも堪能で『一六遺稿』が編まれています。

一六はまた多作で、閑職となつてからは各地を旅行して多くの揮毫を行い、石碑や屏風も多数残しました。本道にも来遊し、小樽・増毛など日本海側各地を訪れ、多くの作品を残しました。

本展では、一六の多彩な作品三十三点を展覧し、その書業を通覧します。

■小原道城書画展

画2点、書5点を展覧します。画は力強く豪華な梅花図など。書は金文や木簡など躍動的な文字に惹きつけられます。

■日本拓本展

なかなか見る事のできない日本の古碑の拓本を展覧します。多胡碑・多賀城碑・山ノ上碑・宇治橋断碑は、遠い飛鳥・奈良時代の貴重なもの。近代の碑拓として、日下部鳴鶴の溟北先生之碑も展示します。

◆巖谷一六の書画 展◆(第一・二・四室)

(第一室)

巖谷一六

1 胸裡大乾坤 何論園若掌 拳山竹可栽 勺水魚堪養
2 父母根元在天地命令、身體根元在父母生育：

3 ①得山水樂寄懷抱 ②於古今文觀異同

4 ①道也者不可須臾離也： ②士不可以弘毅任重而道遠：

5 細草微風兩岸晚山迎短棹 垂柳殘月一江春水送行舟

6 風逐蘆花寒 浦頭集漁客 餘霞散綺紅 掩映千帆白

7 晴波如席平 萬頃琉璃碧 飛帆泛鷗齊 點々交爭白

8 老樹夾幽磴 洞門深又深 啼禽天造磬 流水自然琴：

9 靈福之君壽以致其瑞、四意之祥兼至者可有此天福：

10 惠迪吉

11 不歎行路難 不畏風波惡 名山与大川 只有臥遊樂

12 春和景明波瀾不驚上下天光一碧萬頃：

13 濁酒三杯後 悠然拂素琴 四隣人語歇 寒月到天心

(第二室)

巖谷一六

14 ①汗漫海上期： ②風動素馨花：

15 君家美酒最超群 華友谷風譽遠聞：

16 苦吟茶味高於酒 默坐華香冷似禪

17 和致祥
18 ①琴心詩趣神相會 他

(ショーウインドウ内)

19 ①蕩若有餘芳 一簾花氣香春酒：

(作品寸法…縦×横、単位cm)

(131×50)

(125×33)

(对聯 各134×14)

(双幅 各140×38)

(扇面 13×44)

(30×21)

(145×33)

(22×15)

(135×34)

(扁額 32×84)

(34×43)

(170×92)

(125×52)

(日下部鳴鶴との双幅 各27×18)

(56×45)

(121×48)

(扁額 30×85)

(五者合作 193×66)

(六曲一双屏風右隻 各135×51×6)

- 20 ①芙蓉千仞巔 一舉駕丹鳳：
 21 青山似新沐 點々白鷗飛 斜日塔尖外 殘雲蔽雨歸

(第四室)

巖谷一六 22 香風自何處 脉々入船牕 誰家放孤鶴 導我沂春江：

23 春深處々静茆堂 滿架吳蠶婦子忙：

24 一夜清無眠 鏘々聽夏玉

樂羣

26 不老千年摻 常青四時容

27 ①溶々春水綠 昨雨染桃花： ②處士凌雲志 千秋爲吾師

28 舜民翁寫蘭瀟洒出塵、余造石頑乎不動：

29 每日清晨一炷香 謝天謝地謝君王：

30 ①一白玉玲瓏： ②西施湖上月明船：

31 捲簾月可招 倚欄酒可呼 有酒仍有月 一醉足歡娛：

32 ⑧白日羲皇青山綺 他

33 水陸草木之花、可愛者甚蕃。晉陶淵明獨愛菊：

(六曲片雙屏風 各 136 × 49 × 6)

(13 × 46)

(扁額 39 × 176)

(147 × 51)

(27 × 44)

(38 × 62)

(128 × 49)

(雙幅 各 134 × 51)

(141 × 29)

(六曲一雙屏風右隻 各 131 × 51 × 6)

(日下部鳴鶴との双幅 各 96 × 14)

(151 × 74)

(十者合作 178 × 136)

(129 × 57)

◆小原道城書画展◆(第二室)

34 小原道城 1・画 1 新年無客到山家 雨灑幽牕鼎沸茶：

2・画 2 ①紅菊清香一室 ②金菊凌霜

3・書 1 母坐籃輿兒草鞋 隔着與窻相傳杯：

4・書 2 風

5・書 3 釣月佳致

6・書 4 鳳鸞

7・書 5 天門俵小路彭池 無因以上如之何 興章教海兮誠難過

(95 × 178)

(56 × 103)

(140 × 33)

(136 × 68)

(137 × 33)

(137 × 69)

(43 × 34)

◆日本拓本展◆(第三室)

拓本1 多胡碑(和銅四・七一一年)

弁官符上野國片岡郡緑野郡甘良郡并三郡…

(128×60)

拓本2 多賀城碑(天平宝字六・七六二年)

此城神龜元年歲次甲子按察使兼鎮守將軍…

(143×82)

拓本3 山ノ上碑(天武天皇一〇・六八一年)

辛巳歲集月三日記佐野三家定賜健守命孫…

(124×40)

拓本4 宇治橋断碑(大化二・六四六年)

洩洩横流 其疾如箭 修修征人 停騎成市…

(134×54)

拓本5 溟北先生之碑(明治三一・一八九八年)

佐渡之州 孤絶乎海中 土狹人寡 而論北陸文學…

(187×102)

◆特殊筆展◆(第四室ショーケース内)

筆は、明・清の頃には、文房四宝の一つとして文人に尊ばれるようになり、太さや長さ、弾力などに様々な要求が起りました。一層の品質の向上や装飾性・豪華さなど、機能面以外に興味性や芸術性なども求められるようになりました。そんな中、筆の穂についても、これに応じて、多様な材料が試みられ、吟味されるとともに楽しまれるものともなりました。本展では、珍しい材料で作られた特殊筆十五種類をご覧いただきます。

一竹筆、二茅筆、三アダン筆、四羊筆、五斑馬筆、六馬筆、

七猪筆、八狸筆、九むささび筆、一〇熊猫筆、一一鴨筆、

一二熊筆、一三鷺筆、一四矮鷄筆、一五人毛筆

小原道城書道美術館

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西2丁目41番地 札幌2・2ビル2階

お問い合わせ先=日本書道評論社 (TEL 011-552-2100)

【入館料】 300円(大学生以下無料)

【開館時間】 午前10時～午後5時

【休館日】 毎週月曜日・年末年始・お盆休み・作品の展示替えの期間

【交通】 JR札幌駅より徒歩5分、地下鉄さっぽろ駅・地下鉄大通駅より徒歩5分

協賛/日本書道評論社